

図書だより

1月

今月の目標

好きな本を見つけよう

令和8年1月号



がっき 3学期がはじまりました



しらほっ子^このみなさん、どんな冬休み^{ふゆやす}をすごしましたか？いよいよ3学期^{がっき}が
始まり^{はじ}ました。学習面^{がくしゅうめん}・生活面^{せいかつめん}ともに、この1年間^{ねんかん}の総まとめ^{そう}となる大切な
時期^{じき}です。3学期^{がっき}も授業^{じゅぎょう}や休み時間^{やす}に、みなさんが図書館^{としょかん}に来てくれるのを
楽しみ^{たの}にしています。「好きな本^す」を見つけ^{ほん}てくださいね。

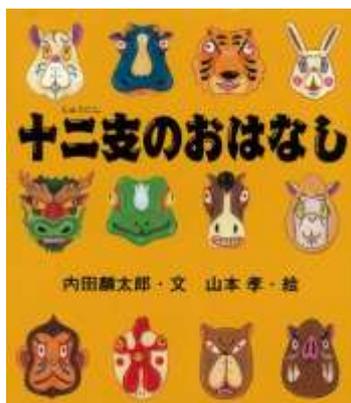


じゅうにし うま ほん 十二支や馬の本

『じゅうにし 十二支のはやくちことばえほん』

高畠純/作 教育画劇

かわいい十二支^{じゅうにし}がユーモラスなイラストで
登場^{とうじょう}します。この本^{ほん}に出てくる早口言葉^{はやくちことば}は
簡単^{かんたん}ではありません。
誰^{だれ}が一番上手^{いちばんじょうず}に読めるかな？



『じゅうにし 十二支のおはなし』

内田麟太郎/文 山本孝/絵 岩崎書店

ねずみ、うし、とら、うさぎ、たつ、へび、うま、ひつじ、さる、
とり、いぬ、いのしし。十二支^{じゅうにし}の順番^{じゅんばん}がどうやって決まった
のか、ねこがなぜ入^{はい}っていないのかが楽しくわかります。

『ウマと話すための7つのひみつ』

河田棧/著 偕成社

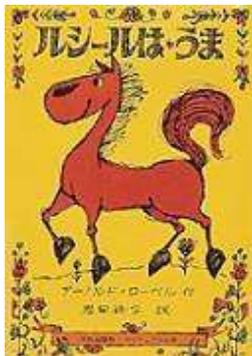
「ウマと話せたらいいなあ」と思ったことはないですか？
ウマは耳、鼻、目、脚、首など体の動きと声で「いまの気持ち」を伝えます。ウマとコミュニケーションが取れるひみつが書かれた本です。



『馬のゴン太旅日記』

島崎保久/原作 関屋敏隆/版画と文 小学館

北海道の函館から九州の鹿児島まで、5才の馬「ゴン太」の背にゆられて、大学生の「ダンナ」が時速4キロののんびりペースで日本を縦断！日本各地の美しい風景を版画で描く、心あたたまるひとりと一頭の冒険旅日記です。



『ルシールはうま』

アーノルド・ローベル/作
岸田衿子/訳 文化出版局

はたけではたらくことにあきたうまのルシール。花のついたぼうしやドレスをきてみますが…



『馬と少年』

C・S ルイス/作
瀬田貞二/訳 岩波書店

しょうねんシャスタは、どれいにうられることをしり、ものいうまブレーとともに、ナルニアめざしてにげだします。



『シマウマしましまなぜあるの』

リラ・プラップ/作
松田泰子/訳
アノニマ・スタジオ

シマウマのしまもよう、キリンのくび、ゾウのはな、サイのつの…どうぶつたちのからだのなぜ？どうして？をかんがえてみよう！



『くいしんぼうシマウマ』

ムウェニエ・ハディシ/文
アドリエンヌ・ケナウェイ/絵

おおむかし、からだがうすぼけたつまらないいろだったどうぶつたち。あるひとつぜんできたほらあなで、すてきなけがわをみつけて、おもいおもいにきかざります。さて、くいしんぼうのシマウマくんは…？